

## 臨床研究に関する説明

<オプトアウト>

当院で Inbody によるサルコペニア（加齢による筋肉量の減少および筋力の低下）評価を受けたことのある患者さんまたはご家族の方へ

神戸労災病院では、診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施致しております。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ございません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究の研究対象となることを望まれない患者さん及びご家族は、その旨、下記問い合わせ先までご連絡をお願いします。調査の対象となることに同意をされない場合でも不利益は一切ございません。

### 【研究課題名】

CT画像によるサルコペニア評価指標開発に関する研究

### 【研究の目的】

近年、超高齢化社会の進行に伴って、病院を受診される患者の高齢化も加速され、患者さんがサルコペニア（加齢による筋肉量の減少および筋力の低下）に陥っている場合が少なくありません。患者さんがサルコペニアの状態であると、手術合併症が多くなることが注目を集めております。欧州老年医学会などの研究グループ The European Working Group on Sarcopenia in Older People (EWGSOP) は、サルコペニアを「筋量と筋力の進行性かつ全身性の減少に特徴づけられる症候群で、身体機能障害、QOL 低下、死のリスクを伴うもの」と定義づけています。中でも骨格筋量低下が必須条件とされています。骨格筋量の測定法として InBody をはじめとしたバイオインピーダンス法（BIA）があり、BIA 法では男性 7.0 kg/m<sup>2</sup> 未満、女性 5.7 kg/m<sup>2</sup> 未満が骨格筋量低下とされ、当院でも採用しています。

これらの測定法は正確である一方、特殊な測定装置を必要とするため、どこの病院でも測定可能という訳ではありません。そのため、かつてより、CT で撮影された腸腰筋群の断面積を身長<sup>2</sup>で除した、PMI 値が考案されいくつかの研究がなされています。これは筋肉量を評価しようとするものです。最近、同様のものとして脊柱起立筋群の CT 値から筋肉の脂肪化度を判定して指標とする IMA C (intramuscular adipose contents) という指標も開発されています。これは筋肉の質的变化を評価しようとする試みです。

ところが、このような研究は数多くなされているにも拘わらず、筋肉の量的変化と質的变化（脂肪化）の双方を加味した指標が存在しません。そこで、本研究の目的は CT で撮影された腸腰筋群や脊柱起立筋群の断面積（量を反映）とそれらの CT 値（質を反映）を組み合わせた新たなサルコペニア指標の開発を試みるものです。

この研究により開発された指標が BIA 法により判定されたサルコペニアを精度良く識別できれば、InBody 等の特殊な装置を有しているかどうかを問わず、診療所等であっても病変の診断の為に撮影された CT からサルコペニアの程度を評価できるようになりますし、術後のフォローアップの際にもサルコペニアの進行や回復を評価できるようになります。当院と連携診療施設の間で共通の指標を用いて患者さんの状態を評価できるようになることは、手術の安全性向上と術後健康維持に貢献できると期待しております。

#### **【対象となる方】**

2023年7月から2024年6月の間に当院においてInbodyによるサルコペニア評価を受けたことのある方で、その前後1年間に腹部のCT撮影が行われたことのある方

#### **【使用する診療情報】**

カルテ情報：年齢、性別、CT撮影データ、Inbody計測データ、血液検査データ

#### **【個人情報の保護】**

利用する情報からは、お名前・住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除して使用いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

**【当院研究責任者】** 神戸労災病院 外科 山本雄造

**【問い合わせ先】** 〒651-0053 神戸市中央区籠池通4丁目1-23

Tel: 078-231-5901(病院代表)